

子どもにやさしいフィンランド・ネウボラ

- 妊娠・出産・子育ての家族包括支援制度の現場視察 -



視察の背景（YM グループ企画）

日本との大きな違いはたくさん感じましたが、特に強く感じた切れ目のない子育て支援は、2014 年から開始された妊娠・出産包括支援モデル事業にてキーワードとなり、2000 年から開始された健やか親子21 の基盤目標の1 つとして充実が図られてきました。

子育て相談のワンステップ拠点として設置が進められた子育て世代包括支援センターでは、フィンランドのネウボラがモデルとなり、日本版ネウボラとして取り組みを始めた自治体もあります。

フィンランドのネウボラのような継続支援を行うために体制の検討が多数されてきました。しかし、子育て支援における対話についての検討はされていません。

子育て支援において、対話は重要な支援の1 つであり、対話のあり方、対話における支援者の姿勢は、支援の継続を決めるキーであると考えます。近年の子育てに関する課題には、子育ての孤立化、子ども虐待、発達支援、そして貧困、ヤングケアラーなどがあり、課題は重複化・複雑化しています。

こうしたなか、継続的な子育て支援は、妊娠期からの支援へと視野を広げつつ、更なる充実が求められています。さらに 2024 年には、母子保健と児童福祉を一体化した子ども家庭センターが設置され、関係機関の連携・協働が強化されています。

今後の子育て支援では、保健や福祉といった専門性の違いを超えて支援を考える必要があり、そして継続支援のための体制づくりだけではなく、対話と関係性に支えられた子育て支援のあり方を検討する必要があると考えます。

そこで、フィンランドにおける子育て支援のあり方、支援者と親・家族との対話と関係性、支援者の教育について学び、対話を通した子育て支援の充実に活かしたいと考えました。

医療視察参加者のこれまでの声 ＜子育て家族包括支援ネウボラ＞

ネウボラという制度や組織に対する国民からの信頼の厚さが日本とは異なると感じました。

多くの母親が「1 人じゃない」と思っていること。

日本では母子保健は役所が担っていますが、組織や保健師という専門職に対する信頼はフィンランドとは違うと感じました。

継続して同じ担当者が支援できるという仕組みを整える必要があり、スペシャリティを育てるという前提で組織があるべきだと感じました。

ネウボラとして活動する保健師、子育て広場、そして支援を受ける利用者側の母親へのインタビューといったように、様々な視点から理解を深めることができ、新しい課題も知ることが出来ました。

アトラスさんには、研修前に「事前質問」を日本語で受けて下さり、しかも、それを翻訳していただき、現地に投げかけていただきました。

研修当日は、その質問の回答も交えてプログラムを進めていただいた点が良かった。



ネウボラ保健師が使う子どもとの対話道具

2026 子どもにやさしいフィンランド・ネウボラ視察 (妊娠・出産・子育ての家族包括支援制度) YMグループ企画

日次	月日 (曜)	都 市 名	発 着	交通機関	時 刻	日 程	宿泊・食事 (朝・昼・夕)
1	9/5 (土)	成田空港	発	航空機	23:05		機内泊 (— — 機)
2	9/6 (日)	ヘルシンキ タンペレ	発 着	専用車 〃	07:00 午 前	ヘルシンキ空港 06:00 着 (通訳同行) ホテルチェックイン後、タンペレ市内散策 本場フィンランドサウナ体験	タンペレ (機 — —)
3	9/7 (月)	タンペレ		公共交通	終 日	視察 (通訳同行) ①「フィンランドの出産・子育て事情」 の講義レクチャー ②「ネウボラ施設」訪問 保健師との交流	タンペレ (○ — —)
4	9/8 (火)	タンペレ		公共交通	終 日	視察 (通訳同行) ③「高齢者福祉施設研修」 ネウボラとのふれあい ④「母親と父親へのインタビュー」 ネウボラサービスを利用した一般的 なフィンランド人の家族の話しを うかがいます。	タンペレ (○ — —)
5	9/9 (水)	タンペレ		公共交通	終 日	視察 (通訳同行) ⑤「現地大学看護学部訪問」 (保健師・助産師養成のための授業参加) 看護学部生との交流(予定) ⑥「総合病院もしくはクリニック」 市内の全てのエリアを引受けている 大学病院の産科病棟を訪問。助産師 教育の現状やネウボラスタッフとの 連携についてインタビューします。	タンペレ (○ — —)
6	9/10 (木)	タンペレ	発	公共交通	午 前	視察 (通訳同行) ⑦「子育て発達障害のある子ども支援施設」 親が留守をしている間の臨時ホームを 2班に分けて視察見学	機内泊 (○ — 機)
7	9/11 (金)	成田空港	着	専用車 〃	12:30 15:00 17:45		(機 — —)

*施設の急な事情により、やむを得ず視察先が変更になったり、順路が変わることもありますので予めご了承願います。

「命の芽生えから全ての子どもを支えるフィンランド」

フィンランドは福祉先進国、男女の格差がなく、女性が子どもを産んでも安心して育てていける国としても有名です。

その福祉を支えているのが「NEUVOLA ネウボラ」(アドバイスの場所の意味)の存在です。妊娠期から出産、子どもの就学前までの間、母子とさらに家族も支援する目的で、地方自治体が設置運営する拠点。また、その出産・子育て支援制度のことをいいます。

通常、妊娠の兆候のあったとき、無料の検診後は、母子の健康診断、保健指導、母親の心理面のサポートなどで、妊娠期間中に 10 回前後通います。出産後は、子どもが小学校に入るまでの間、定期的に訪れる人が多いです。ネウボラでは、一人の保健師が子どもやその家族と対話を重ねながら、継続的に担当することになっており、医療や健康に関するだけでなく、子どもの成長や家庭の問題など悩みを相談できる場所であり、また必要に応じて看護師、ソーシャルワーカー、心理士など専門職のサポートを受けられます。利用者のデーターは、通常 50 年間保存され、医療や子育て支援のためだけに利用されます。全ての自治体に設置されており、国民はだれでも無料で利用できます。



育児パッケージは出産に際し、社会保険庁から無料で支給される母親手当のひとつです。箱の中身はベビーケアアイテムやオシャレなベビーグッズ、親が使用するアイテムなど約 50 点。このシステムは妊婦健診への動機付けの効果があり、リスクの早期発見・早期予防に貢献しています。

◆医療視察手配旅行会社◆



妊娠から小学校入学まで子どもと家族全体のケアをワンストップで行うネウボラ。ママたちは「遠くの母より近くのネウボラおばさん」と慕っています。

【企画要項】

- 概算予定代金:
お問合せ下さい
- 別途費用: 燃油空港諸税、国内交通費、海外旅行傷害保険、
日程以外の食事代、渡航手続費
- 最低催行人員: 7名様以上
- お食事: 朝4、昼O、夕O回
- ホテル: 4ツ星ホテル
(ツイン1室2名・同室)
- 一人部屋追加代金: 90,000円
- 申込締切日: 4/28(火)
- ★但し定員 15名になり次第締め切ります
- 参加人数が 7名に満たなかった場合は中止となるか、料金値上げのご相談の上、催行を予定しています。
- この旅行条件は 2025年11月1日を基準日として、現行航空運賃にて算出してあります。

■申込・問合せは下記 QR より



【一ロメモ】

- ◆9月の最高気温 15°C、最低気温 7°C
- ◆人口: タンペレ市域 22 万人 (ムーミンの町)
フィンランド 532 万人
- ◆高齢化率と合計特殊出生率:
フィンランド: 23.90% 1.26 人
日本: 29.78% 1.20 人
- ◆時差: -7 時間 (日本より遅れている)
- ◆通貨: ユーロ (EUR) = 179.09 円 (11/9)
- ◆電圧: 240V、C型プラグ(丸 2 ピン)
- ◆査証: 不要 (90 日以内の観光に限り)
- ◆パスポート残存有効期間
: 出国時 3 ヶ月以上が望ましい。

視察企画について

この視察企画のご案内は、過去の視察実績をもとに、モデル日程に沿い手配する旅行です。従いまして、現時点で視察先が確約されたものではありません。直前に、急患・担当者の交代・組織の改変など視察先の事情により訪問できなくなる場合があります。その際は、出来うる限り代替の訪問先をご提案させていただきます。なお、暫定日程はご出発の 21 日前までに通知予定ですが、途中、変更点などありましたら、隨時ご案内させていただきますので、予めご了承願います。

株式会社アトラス旅行

〒921-8161 金沢市有松 5-10-24 ブラミスピル 3F

TEL: 076-259-6133 FAX: 076-259-6194

Email: welcome@atlastours.co.jp

企画担当: 木村幸生 手続き担当: 島野佳子・村松明日香